

沖永良部島輪行一人旅

令和4年3月18日

3月15日

計画では、2泊3日沖永良部の予定で家を出た。

フェリーの予約をしてなかったのが、早めに家を出て、07:30 本部港着。午前8時の改札を待つ間に、「ヨロン島ガイドマップ」を手にとった。百合ヶ浜をバックにした、内木志さん（ヨロン島特命大使 2021）のあふれる笑顔に魅せられて、「今日はヨロンへ行こう」となった。予約してないのが幸いした。

ヨロンへは現役の際、夏休みに女房と、孫の3人で数回来ている。その時は、あのプリシアリゾートのコテージに滞在。目の前の砂浜と冷房の効いた室内で日中を過ごし、島内はレンタカーでバス路線を一周しただけだった。今回ガイドブックを見ると、海岸沿いに島一周するサイクリングロードが設定されていて、名所を巡ることができる。



伊江ビーチで会った、愛知から来たキャンパーが、次は与論島へ行く「ヨロンの百合が浜を見たい」と言っていたのを思い出し、まずは百合が浜を目指しサイクリングロードを反時計回りに出発。途中、世論城址に立ち寄る。城址があるとは驚きだ。



サンゴの積石で小高に石塁を巡らせた城跡で、城址内から沖縄本島の辺戸岬が見える。
今は城跡内に琴平神社と小さなトリーが建っている。

13:00 赤崎鍾乳洞到着。参観料500円を払ったら、懐中電灯とヘルメットを貸してくれた。昭和40年に発見され、120mの本洞に「サンゴ礁の化石」や、「雪の棚田」小さいけど、なかなか見ごたえのある洞窟だ。



民俗資料館があるがお腹が空いていたので、赤崎海岸の食堂へ向かう。遅い昼食をとり百合が浜へ。

14:00 百合が浜到着。2キロの白い砂浜が続き、キャンプ場もあるが、今は軽石の除去工事でキャンプ禁止。



(昭和皇后の歌碑)

皇后陛下御歌（平成 29 年 11 月、天皇皇后両陛下来島）

「南の島々遠く来て 島人と共に過ごしたる 三日ありしを君と愛しむ」

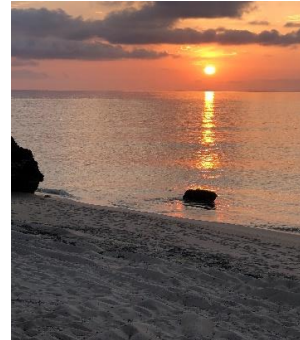
16：00 茶花着。漁港やビーチに面した、島で随一の繁華街。「銀座通り」と称して、スーパーやホームセンタ、居酒屋も数件ある。ビーチのモクマオ林を今日の野宿場所と決めた。



（ハンモックで野宿）



（茶花海岸の夕日）



伊江島ではハンモックを釣るロープで苦戦したので、今回は丈夫なロープを準備していた。

ハンモックをつるすため枝にロープをかけ、ぶら下がって強度を確かめたりしていたら、その様子を犬と散歩中のご婦人がしばらく遠目に眺めていた。私の行動を不審に思ったのか、近づいてきて「何かなさるのですか！」と不安そうに聞いてきた。

「ハンモックを吊るすための準備をしている」と答えたら、安心して「どこから来たのか？」とか「私も沖縄です、牧港に住んでいるが仕事の関係で、半年前からヨロンに住んでいる」とか、しばらく雑談。その後「手を休めさせてごめんなさい」と去っていった。

枝ぶりの良い木にロープをかけている仕草が、件のご婦人には「くたびれた老人が、世をはかなんでいる姿」に見えたのかと、ひとり苦笑した。

夜は「炉端居酒屋 海将」のカウンター席で、初めて食べた「炭焼 飛び魚」を肴にビールと地酒黒糖焼酎、隣席同士で乾杯。いずれも島外からの訪問者だった。

今回は寝袋を持たず、試しにユニクロのダウンジャケットで代用することにしたが、寒くて寝むれなかった。

3月16日

ヨロン発 12 時、沖永良部和泊港着 14 時 30 分。前回山歩会で来た時の沖永良部の印象は、西郷食堂の「焼きえび定食」。心残りなのは尚信君が一人抜けがけで行った「カラオケスナック 女ざかり」



下船して、すぐのところなので事前に偵察に寄ったら、入り口に「県外でのコロナ感染

拡大で、島外からのお客さんはお断り」の張り紙あり、残念。

次のお目当ての「西郷食堂」の近く、ワンショビーチへ野宿場所を求めて自転車を走らせた。ワンショビーチもコロナで「利用禁止の張り紙」。とりあえず西郷食堂まで移動したら、食堂の向かい「西郷上陸の碑」の周辺が整備されて、東屋もある。

今日の野宿場所に決めてハンモック吊り。



(奥に見える建物が西郷食堂)



(焼きエビ定食 2,400 円を堪能)

今日は寒さ対策として輸行袋を広げて被った、厚手のカンバス布でできているので、寝袋代わりに役立った、新発見。

野宿で困るのは風呂や温水シャワーに入れられないこと。ビーチにはシャワーはあれど、まだ冷たくて浴びることができない。とりあえず3カ所だけ洗って済ませた。

3月17日



(日本一のガジマル)



(フーチャー)

国頭周りで和泊港に行ったら、強い西風でフェリー乗場が伊延港に変更されていて、自転車のバッテリー残量を気にしながら、野宿した伊延へ逆戻り。

昨年11月に就航した新造船「クインコーラルクロス」で帰ってきた。



あとがき：「旅はみちずれ」とは、よく言ったものだ。

4年前「山歩会」で行った時の「ワイワイガヤガヤ」や、街灯もない暗い夜道をもくもくと何時間も歩いたことが、今も強く心に残っている。